

角田山

多宝山

日本海



# 佐潟散策マップ

## 春夏版



### 案内標柱

佐潟を歩く際には案内標柱(左)を目印にしましょう。マップと連動して①～⑬の標柱が設置されています。

佐潟水鳥・湿地センターを基点	距離	徒歩
野鳥観察舎までを往復	約1km	約25分
下潟のみを一周	約4km	約1時間
上潟と下潟を一周	約5.5km	約1時間30分

自転車の貸出しもあります!

### 西区無料レンタサイクル



●貸出返却場所  
佐潟水鳥・湿地センター  
(午前9時～午後4時)(休館日は除く)  
※こども用はありません

### 野鳥観察舎



### 佐潟水鳥・湿地センター

開館時間/午前9時から午後4時30分  
(11月から2月の土日は午前7時から)  
休館日/月曜(祝休日の場合翌日)、  
年末年始(12/29～1/3)

←至巻方面



↓至内野方面

御手洗潟(みたらせがた)





番号	場所の呼名	呼名のいわれ、ようす	標柱の写真
1	さかたばし <b>佐潟橋</b>	佐潟公園整備の際に建築され、現在は2代目の橋。佐潟の代表的景観が望める。	 <b>ハス</b> 佐潟の夏の風物詩。花は盆花として、果実は食用や工芸材料に活用。
2	しぜんせいいたいえん <b>自然生態園</b>	木道が整備され、希少な水生植物や水生昆虫、魚も観察できる。	 <b>オニバス</b> 日本の水生植物の中で一番大きな葉をつける。新潟市が北限の自生地。
3	やちようかんさつしゃ <b>野鳥観察舎</b>	愛称は「潟見鳥(かたみどり)」。水鳥の観察には、佐潟で最もよい場所にある。	 <b>オオヨシキリ</b> ヨシ原で子育てをする夏鳥。鳴き声はとつてもにぎやか。
4	すぎ <b>杉ダゴ</b> (スギンダオ)	昔、ここに杉林があったという。現在も細い杉があり、面影を伝えている。	 <b>ヨシ</b> 水際に生え、群落を作る。大人の背丈を超えるものも。
5	はな さか <b>花が坂</b>	悲しい言い伝えからこの地名がついた。現在は、坂の痕跡がわずかに残るだけ。	 <b>オドリコソウ</b> 人里に多い。名の由来は花の形が笠をかぶった踊り子に見えるからとか。
6	こ わた みち <b>漕ぎ渡り道</b> なかみち (中道)	上潟と下潟を分ける道。現在は通称「中道(なかみち)」と言われている。	 <b>ミスアオイ</b> 水辺に生える絶滅危惧植物。昔は田んぼの雑草だった。
7	ひかりづか <b>光塚</b>	昔、純金の観音菩薩、法具等が出たという伝説のあるところで、うっそうとしている。	 <b>ノアザミ</b> 春から夏にかけて開花するアザミのなかま。葉にはとげがある。
8	おおしみず <b>大清水</b>	かつて幾筋もの水路があり、清らかな冷たい水が湧き出していた。佐潟で最も上流にあたる。	 <b>ベニシジミ</b> 日当たりの良い草原に多い。羽を広げた大きさは、500円玉ほど。
9	なごまつ <b>名子松</b>	かつてこの地には立派な松林があり、地主に断り松葉拾いをしたという。	 <b>ノシメトンボ</b> 赤とんぼのなかま。羽の先が黒いのが特徴。
10	ぬま <b>沼</b>	下潟の北西岸一帯。現在は松が植栽され、中にある道は春や秋に心地よい。	 <b>ノイバラ</b> 花の終わった後につく赤い実もきれい。
11	はすごやば <b>蓮小屋場</b>	蓮根採りが盛んな昔、ここに小屋をつくり、火で温まりながら潟に潜り蓮を採っていた。	 <b>セスジイトンボ</b> からだの太さはマッチ棒ほど。雄雌で色が異なる。
12	ながわり <b>長割</b>	御手洗潟(みたらせがた)に面し、かつてはもっと高い砂山があった。	 <b>ヨシゴイ</b> 水辺で生活する夏鳥。水辺の草に擬態(ぎたい)する。
13	はなびば <b>花火場</b> (赤塚中学校)	昔、お祭りの際、草花火のほか、この地で打ち上げ花火がおこなわれていたという。	 <b>コウホネ</b> 水面にあざやかな黄色い花をつける。

● マップ製作：佐潟水鳥・湿地センター

住所 新潟市西区赤塚5404-1 電話025-264-3050

● 公園についての問合せ：新潟市西区建設課

電話025-268-1000(代)

※このマップに掲載されているデータ・画像の転載・無断使用はできません。